

# 接着芯地についての基礎研究 (第2報)

主婦の接着芯地の使用状況

本郷美枝・潮田美智子・高山瑞栄

The Fundamental Studies on the Adhesive Interlining (2)  
On How the Housewives Employ the Adhesive Interlining

Mie HONGO, Michiko SHIOTA and Mizue TAKAYAMA

It has been comparatively long since adhesive interlining has been developed and employed. The purpose of our study is to conduct its fundamental research.

In this second report, the authors intend to conduct the research on how housewives employ the adhesive interlining based on the results of inquiries conducted with them. In future this research is to be continued by conducting further experiments and local application of similar methods.

## 緒 言

衣の生活のうち洋服は、表地、裏地、芯地などの材料によって構成される。その中の芯地においても、接着芯地は近年急速な発達をとげている。接着芯地が開発され、使用され出してから久しいが、被服立体構成ならびに他教科においても使用されている。しかし家庭では接着芯地がどのように使用されているかの実態を把握する必要があり、家庭洋裁に関する調査の一部として主婦の接着芯地の使用状況についても調査を行なったので、第2報では、高等学校の生徒の家庭の主婦について行なった調査の結果<sup>1)</sup>について報告し、第1報の学生について行なった調査の結果<sup>2)</sup>の一部と比較する。今後、実験及び部分的な応用などについて研究、考察を行なうものとする。

## 調 査 方 法

### ☆ 調査時期

昭和47年1月

### ☆ 調査対象

高等学校の生徒の家庭の主婦の接着芯地の使用状況についての調査対象は、東京都の私立大学附属高等学校の家庭である。居住地域は、東京都の城北地域及び埼玉県の一部などである。

### ☆ 実施方法

高等学校の1年生～3年生の生徒を通し家庭の主婦に調査用紙を配布、解答を求めた。なおこの調査用紙は、家庭洋裁についての種々の設問のあとに、接着芯地について説明をし、設問、解答を求めたものである。

☆ 調査項目

1. 主婦の年齢について
2. 主婦の最終学歴について
3. 主婦の最終学歴の他に洋裁に関する専門教育について
4. 接着芯地に関する知識の有無について
5. 接着芯地を使用したことの有無について
6. 接着芯地を使用したことのある主婦については、各種洋服のどの部分に使用したかについて
7. 接着芯地を使用したことのある主婦については、使用した接着芯地の種類と品名の認識について
8. 接着芯地を知っていて使用しなかった主婦の理由について
9. 主婦の接着芯地についての感想

☆ 回収率

配布総部数 1,514, 回収部数 1,117 で平均回収率は 73.8% であった。

調査結果及び考察

1. 主婦の年齢について

主婦の年齢については、図1に示す通りである。高等学校1年生～3年生の家庭の主婦の平均年齢は44.1才であるが、構成は34才～58才と幅広く、30代は8.7%、40代は79.4%、50代は9.3%である。中学校1年生～3年生の家庭の主婦の場合の年齢の範囲は、32才～58才でほぼ同じであるが、平均年齢は41.3才でその内訳は、30代が35.2%、40代は58.5%、50代4.4%である。

2. 主婦の最終学歴について

主婦の最終学歴については、次の通りである。旧制高等女学校を含む高等学校以上の教育を受けた主婦は、73.3%である。その内訳は、尋常小学校卒業は2.0%、高等小学校卒業18.7%、新制中学校卒業2.4%、旧制高等女学校卒業は54.4%、高等学校卒業6.3%、専門学校卒業10.6%、短期大学卒業1.0%、大学卒業1.0%、不明2.6%、無回答1.0%である。

3. 主婦の最終学歴の他に洋裁に関する専門教育について

主婦の最終学歴の他に洋裁に関する専門教育については、表1に示す通りである。現在のように大学教育が一般化されていない状態において、54.8%であり洋裁の心得を持っている主婦は多い。その内訳についてみると、洋裁学校出身の場合、3ヶ月～6年までの小計が413人67.5%であり、個人教室で学んだ主婦は小計139人22.7%、その他、洋裁学校と個人教室の両方に通って学んだ主婦など60人9.8%である。中でも2年間専門に修得した主婦は、洋裁学校、個人教室併せて159人26.0%、1年間修得者が252人41.2%であった。

以上のような条件の主婦の接着芯地に対する使用状況については、次のようである。

4. 接着芯地に関する知識の有無について

接着芯地に関する知識の有無については、1,117人の主婦の結果で表2に示す通りである。接着芯地を知っていると答えた主婦は681人60.9%、知らないと答えた主婦377人33.8%、無回答59人5.3%である。

昭和45年入学の大学生および昭和46年入学の大学生に、調査を行なった際、ほとんど全員が知っているという回答していたが、年代の差が感じられる。

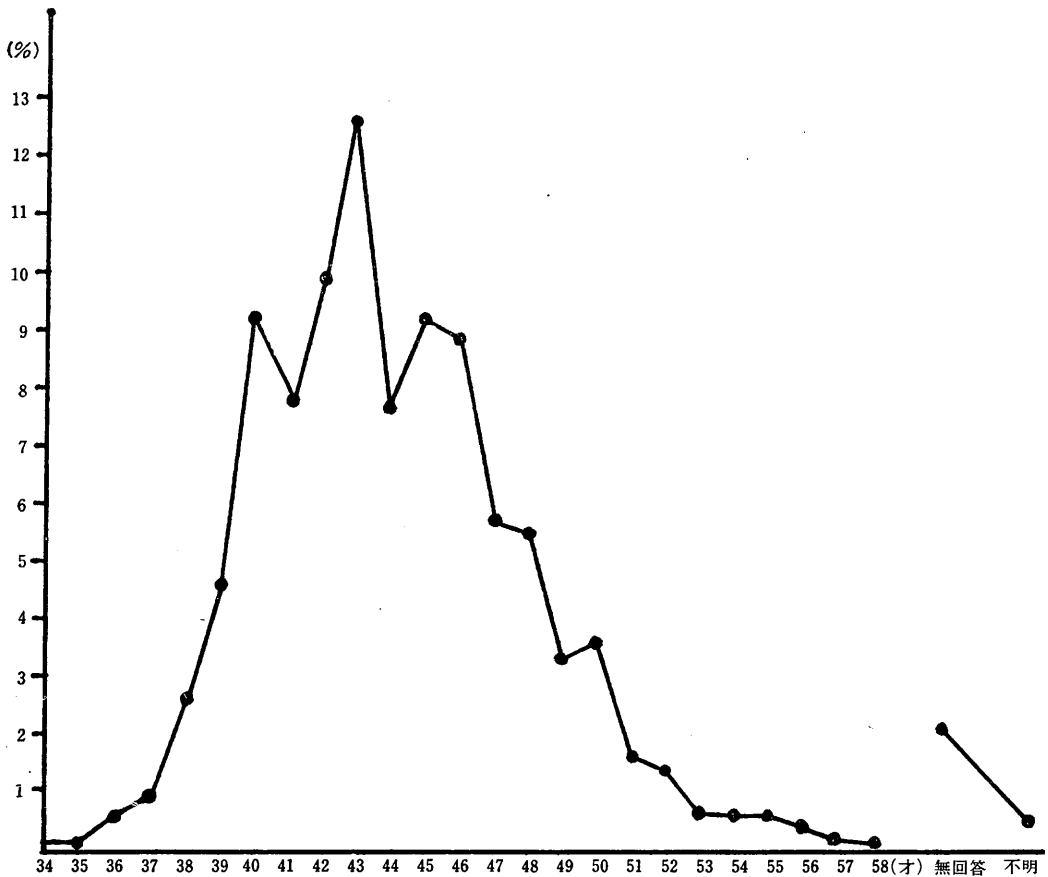


図1 主婦の年齢について

S.47.1.調

5. 接着芯地を使用したことの有無について

接着芯地を使用したことの有無については、4. 接着芯地に関する知識の有無についてで接着芯地を知っていると答えた主婦681人60.9%の結果で、表3に示す通りである。

学生が接着芯地を使用したことの有無は、昭和45年入学生では11.7%，昭和46年入学生では、81.6%であった。高校生を持つ主婦の場合は、使用したことがあると答えた主婦は304人44.7%，ないと答えた主婦は342人50.2%，無回答は、35人5.1%であり、使用した主婦と学生との比は大であるが、これを中学校の生徒を持つ主婦と比較すると、中学生を持つ主婦で、使用したことがあると答えた主婦は40.8%，ないと答えた主婦52.4%，無回答6.8%であり、大きな差は見られなかった。

表1 主婦の最終学歴の他に洋裁に関する専門教育について

	実数 (人)	平均 (%)
受 け た	612	54.8
受けなかった	417	37.3
無 回 答	88	7.9

6. 接着芯地を使用したことのある主婦については、各種洋服のどの部分に使用したかについては、接着芯地を使用したことのある主婦については、各種洋服のどの部分に使用したかについては、接着芯地を使用したことのある主婦 304 人44.7%の結果を表4に示した。

スカートの各部分に使用しているのが最も多く64.5%，次がスーツの40.5%，ワンピース・ドレスに32.9%，コートには30.2%，ブラウス26.3%，子供服12.1%，その他3.6%である。

最も使用状況の多いスカートの主な部分は次のようである。見返しの部分に59人19.4%，ベルトに使用したが23人7.6%，ヨークに10人3.2%である。

ブラウスの項で見ると、えりが最も多く35人11.5%，次が見返しが11人3.6%，そで口に8人2.6%である。

ワンピース・ドレスでは、えりに30人9.9%，そで口12人3.9%，前立てに10人3.3%，カフスに8人2.6%などである。

スーツにおいては、えりに31人10.3%，前身頃に使用16人5.3%，見返しに15人4.9%，前立て、そで口にそれぞれ8人2.6%使用している。

コートでも同じく、えりに使用したが25人8.2%，次が見返しに11人3.6%，そで口に10人3.3%である。

子供服では、婦人服に比し、使用が少ないがやはり、えりが多く11人3.6%，見返しに4人1.3%であり、ポケットにも3人1.0%使用している。

その他では、スラックスの伸び止め、カーテンなどに用いられている。

学生の場合には教材でスカートを取り上げており、この部分に使用されたのが、圧倒的に大である。

7. 接着芯地を使用したことのある主婦については、使用した接着芯地の種類と品名の認識について

接着芯地を使用したことのある主婦については、使用した接着芯地の種類と品名の認識についての結果は、表5に示す通りで、接着芯地を使用したことのある主婦 304 人44.7%を対象としたものである。

わかると答えた主婦 131 人43.1%，わからないと答えた主婦 141 人46.4%，無回答32人10.5%である。

わかると答えた主婦の中、さらに使用した接着芯地が織布接着芯地か不織布接着芯地かについては、織布接着芯地と回答した主婦13人4.3%，不織布接着芯地であると回答した主婦68人22.4%，無回答50人16.4%であった。

接着芯地について全体の約半数が種類や品名の認識がないまま使用した場合に

表2 接着芯地に関する知識の有無について

	実数 (人)	平均 (%)
知っている	681	60.9
知らない	377	33.8
無回答	59	5.3

表3 接着芯地を使用したことの有無について

	実数 (人)	平均 (%)
あ る	304	44.7
な い	342	50.2
無回答	35	5.1

表4 接着芯地を使用したことのある主婦については、各種洋服のどの部分に使用したかについて

（頻数によるため100%をこす）

	接着芯地を使用した主な部分	実数（人）	平均（%）
スカート	見返し、ベルト、ヨーク など	196	64.5
ブラウス	えり、見返し、そで口 など	80	26.3
ワンピース・ドレス	えり、そで口、前立て など	100	32.9
スーツ	えり、前身ごろ、見返し など	123	40.5
コート	えり、見返し、そで口 など	92	30.2
子供服	えり、見返し、ポケット など	37	12.1
その他	スラックス、カーテン など	11	3.6
無回答	—	18	5.9

生ずる不安と、何らかの方法で認識を深めることの必要性を痛感する。

#### 8. 接着芯地を知っていて使用しなかった主婦の理由について

接着芯地を知っていて使用しなかった主婦の理由については、接着芯地を知っていて使用しなかった主婦342人50.2%の結果で表6に示す通りであり、学生の調査結果と同じような傾向である。

「その他」が、113人32.8%と多いが、その内訳は「芯地を扱うものは縫わない」、「洋服を縫わないから」などが主であり、「近くに売っていない」、「何となく」という主婦も少数あった。「むずかしそうだから」、「心配である」とか、「接着芯地を知っているが、使い方がよくわからない」という主婦に対しては、積極的に簡単なものから手がけて欲しいし、その機会を得られるようにしたいものである。

#### 9. 主婦の接着芯地についての感想

主婦の接着芯地についての感想は、次のようなものであった。「普通の芯地より便利である」「とめる必要がなく簡単でよい」、「能率的」、「不織布接着芯地は布目がなくて経済的」、「部分的に使用したい」、「仕上りが軽し柔かい」ということであり、その反面「アイロンの温度との関係がむずかしい」、「はがれ易い」、「子供服などの洗濯の激しいものには心配である」、「接着がうまくいかない時が

表5 接着芯地を使用したことのある主婦については、使用した接着芯地の種類と品名の認識について

	実数（人）	平均（%）
わかる	131	43.1
わからない	141	46.4
無回答	32	10.5

表6 接着芯地を知っていて使用しなかった主婦の理由について

	実数(人)	平均(%)
むずかしそうだから	32	9.3
購入しづらいから	16	4.6
使い方がわからない	48	13.9
心配である	48	13.9
その他	113	32.8
無回答	88	25.5

ある」、「アイロンに接着剤がつく」、「身体の曲線がうまく出せない」など、技術面のむずかしさ、不安を上げている。「自分が習うころには接着芯地はなかった」、「宣伝を見ていると使いやすそうである」、「使用方法を知りたい」という感想も見られた。

### ま と め

以上の調査結果を見ると、高校生を持つ主婦の接着芯地の使用状況については、接着芯地を知っている主婦は全体の過半数であったが、実際に使用したことのある主婦は多いとは言えない。しかし、その使用状況は、日常着として縫製されるものの中、使用の多い順からみると、スカート、スーツ、ワンピース・ドレス、コート、ブラウスなどである。

使用した接着芯地の種類と品名などの細部についての不明な点や、使用方法、使用上の不安などが解明されることにより、家庭洋裁の合理化ならびに能率化が促進され、なお一層多くの人に使用されるのではなからうか。

接着芯地を使用しなくとも、その活用法、取り扱い方、購入の仕方などの知識を持つことは、技術を身につける以上に大切なことと思われるので、主婦のために、教育の場を与えてほしいもの考える。

今後、この研究は、調査結果をもとにして、接着芯地の実験及び部分的な応用などについて研究考察をして行きたいと考えている。

終りにあたり、この調査研究にご協力をいただきました東京家政大学附属女子高等学校校長高橋敬三先生、同校諸先生、お母様方、生徒の皆さん、および旧職員の森静香氏に対して、厚く御礼を申し上げます。

### 註

- 1) 本郷美枝, 潮田美智子, 森 静香: 衣生活, 14, 10~13 (1971) 中学校の生徒の家庭の主婦の結果
- 2) 本郷美枝, 潮田美智子, 森 静香: 東京家政大学研究紀要, 12, 95~102 (1973)